

## 日本の再設計

### ～持続可能な人間復興の社会作りとリーダーの育成～

2012/5/11

山田 英雄

#### 第一 リーダーの資質とその育成

##### ① 組織におけるリーダーシップ

確固たる国家観、歴史観、大局観、使命感、先見性、洞察力、決断力、統合力  
判断力、交渉力、知力、説得力、カリスマ性 e t c .

いずれも、リーダーとして成功し、実績を治めた人々の資質から演繹した徳目

##### ② 上記の資質は先天的に与えられるものではなく、重要なことはこれらの資質を育むシステムと環境をどのように構築していくかである。

#### 第二 各界における人材の劣化とエリート教育の欠損

##### ① 国の三権（立法、司法、行政）における人材の劣化

##### ② 各界における人材の劣化の遠因に占領政策による修身・歴史教育の禁止がある。 （73歳分水嶺？）

➤修身教育の廃止による心の羅針盤の狂い

➤歴史教育の禁止により日本人の誇りは奪われた

##### ③ 戦後の6・3制においてはエリート教育が消えた。

➤「日本の自殺」（昭和50 文芸春秋2月号）

共同執筆グループ1984年

※「あらゆる文明が外からの攻撃によってではなく、内部からの社会的崩壊によって破滅する」

「自制心、克己心、忍耐力、持続力にない青少年が大量生産され、さらには強靱なる意思力、論理的思考能力、創造性、豊かな感受性、責任感などを欠いた過保護に甘えた欠陥青少年大量に発生」

「誤れる“民主教育”の主張者たちは、エリート教育を差別教育として全面的に否定する」

「エリート教育を喪失して幼稚化しつつある教育の世界に広がる悪平等主義のイデオロギーほど強力な“自殺のイデオロギー”はないであろう」

##### ④ 外国におけるエリート教育

➤米国のハーバード大のケネディスクール

➤フランスの国立行政学院（ENA）

視野が広くてあらゆる議論ができる人材が育つ。  
各国の政治中枢に人材を送り込みリーダー供給源として知られる。

### 第三 現在の6・3制の下における高校生、大学生の意識と能力

#### ① 高校生の意識

- すでに「全入」が実現している高校は義務教育化している。
- 18歳で選挙権を与えようとしても、政治的判断ができない幼稚さがある。
- 目指す目標がなく、人生設計が出来ていない。なりたい職業がない。

#### ② 大学生の現状

- 全国の大学数780、定員数約60万人  
110万人の高校卒業生の大学志願率約50%、約55万人。大学全入がほぼ実現している。  
2011年度では私学の4割が定員割れ  
{大学入学者599,409人のうち262,345人(全体の44%)が筆記試験のない推薦入学かA・O入試}
- 小中レベルでの一部教育崩壊により大学生の基礎学力の低下傾向は著しい。  
対策として
  - ※入学前の補習教育実施 (全大学の2割 153大学)
  - ※基礎学力の補習教育の実施 (全大学の6割)
- レポート提出など安易な単位取得
- 今や大学は、エリート教育の場ではなく、高等教育の場でもなく、いわば「社会を支える中間層教育」ないしは「定職につかせるための教育」に堕している。
- 2011/1の中教審「大学教育と就職力」答申
  - ※進路の目的意識の希薄
  - ※職業観の未熟さ
  - ※労働意識の低下
  - ※ハングリー精神、競争心がない
  - ※忍耐力がない
  - ※「志」がない。将来に対する期待や夢を持たない。
  - ※自分自身の人生設計に組み込んでの学習意欲がない。
- かくて、「多くの大学は、学識も英語力も実務経験もない学生達を惰性的に再生産している」

### 第四 教育の再生なくしてリーダーの輩出なし

- ① 「教育の再生なくして国の将来はない」との危機感を持つこと  
[首相をはじめとし政治家の覚醒が求められる]
- ② 米国及び英国における教育改革に学ぶべし  
[続「ひと・組織・こころ」381頁参照]

[米国]

- 1983年、レーガン大統領によって設置された「教育の卓越に関する国家委員会」の  
「危機にある国家」と題する教育改革報告書  
※学校の規律を回復し、基礎学力の充実を図るべく「基本に返れ」と呼びかけ「古き良き学校の再建」を提唱  
※伝統的教育への回帰

[英国]

- 1988年、サッチャー首相「教育改革法」の制定  
※「教育の再生なくして国家の再生なし」と宣言  
※精神革命ともいうべき救国の改革の実施  
※「教育内容は国家が責任をとる」との基本的原則を打ち出して国定のカリキュラムを導入  
※「全国共通テスト」「義務教育終了テスト」を実施し、成績の悪い教育困難校の積極的排除

## 第五 リーダー育成のための「教育再生の具体的方策」

[正「ひと・組織・こころ」320頁参照]

### ① 修身の教科書作成と教科としての位置づけ

[正「ひと・組織・こころ」257頁参照]

[参考]

- 13歳からの道徳教科書（育鵬社）
  - 戦前の修身教科書
  - 教育勅語
  - 会津藩 日新館「什の掟」
- ② 教育の再生を支える聖職者としての情熱と責任感ある教師養成のための専門大学の設置
- 中教審による改革案  
「教員養成課程の大学院修士レベル化の段階的推進」  
～教員の高度専門職業人としての位置づけ確立のために～
- ③ 6・3制の教育システムの抜本的改革  
〔現行の6・3・3・4制のシステムを6（小学校）・5（中学校）・3（高等学校）3（大学）へと大幅刷新〕
- ※小学五年から中一年への飛び級  
中学四年から高校一年への飛び級を認める
  - ※新しい高等学校は専門高校と教養教育高校とに分け、前者では社会の中間層育成を担わせ 後者にはリベラル教育（語学をはじめ歴史、文化、哲学、古典、文学、芸術、宗教）などを担わせる（出来うれば全寮制とする）
  - ※大学は現行の780を大幅に整理して、8ないし9つのブロック毎に真のエリー

ト養成のための国立大学を設立する。

この学生には、教養教育高校の卒業生から厳正に選抜した少数の者のみを入学させ、ハーバード大学、ENAに匹敵するエリート教育を施す。

- ④ 高校卒業前の3ヶ月間程度の期間に切磋琢磨と鍛錬のための集団合宿の義務づけ〔続「ひと・組織・こころ」362頁参照〕

➤李登輝氏の言葉

➤ひろく社会貢献のための各種ボランティア活動の実施 e t c

➤先験的試み

※愛知県の中高一貫校「海陽学園」（全寮制）

※京大大学院の5年制の全寮制少数（20人）教育

※中学生への武道必修化

[付]

体験的リーダー論

(1) 何よりも大切なのは肉体的、精神的な耐久力

※ A sound mind in a sound body.

健康と体力そしていかなる重圧にも堪え得る強靱な精神力、忍耐力、胆力

(2) 自らの方針の実現をサポートしてくれる良き部下・同志(同じ釜の飯の仲間)

(3) ロウアー・マネジメント(現場における個々の作業単位のマネージメント)とミドルマネジメント(中間管理職)の経験を持つこと。(地道なフォロワー・シップ経験の積み重ね)

(4) 団結と和の醸成力(人心掌握力)

※志気昂揚策

※公正な人事(信賞必罰、適材適所)

【資料】

戦前の修身教科書で

偉大な足跡を残した人物、立志伝中の著名人  
名もなき人々の眞しな生活などで揚げられた人々

二宮金次郎 本居宣長 上杉鷹山 春日局  
木村重成 徳川光圀 貝原益軒 毛利元就  
豊臣秀吉 丸山応挙 中江藤樹 楠木正成  
勝 安房 吉田松陰 新井白石 西郷隆盛  
加藤清正 乃木希典 林 子平 伊能忠敬  
ナイチンゲール ソクラテス ジェンナー  
コロンプス フランクリン

教育勅語（明治二十三年十月三十日 制定）

（昭和二十三年六月 排除・失効）

- 「父母ニ孝」
- 「兄弟ニ友」
- 「夫婦相和シ」
- 「朋友相信シ」
- 「恭儉己を持シ」
- 「博愛衆ニ及ボシ」
- 「学ヲ修メ」
- 「業ヲ習イ」
- 「知能ヲ啓発シ」
- 「徳器ヲ成就シ」
- 「進ンデ公益ヲ広メ」
- 「世情ヲ開キ」
- 「国憲ヲ重ジ」
- 「国法ニ遵ヒ」
- 「一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ」

国民実践要領(昭和二十六年九月)天野貞祐元文相

第一章	個人	第三章	社会
一	人格の尊厳	一	公德心
二	自由	二	相互扶助
三	責任	三	規律
四	愛	四	たしなみと礼儀
五	良心	五	性道徳
六	正義	六	世論
七	勇氣	七	共同福祉
八	忍耐	八	勤勉
九	節度	九	健全な常識
十	純潔	十	社会の使命
十一	廉恥		
十二	謙虚	第四章	国家
十三	思慮	一	国家
十四	自省	二	国家と個人
十五	知恵	三	伝統と創造
十六	敬虔	四	国家の文化
		五	国家の道義
		六	愛国心
		七	国家の政治
		八	天皇
		九	人類の平和と文化
第二章	家		
一	和合		
二	夫婦		
三	親子		
四	兄弟姉妹		
五	しつけ		
六	家と家		

【資料】

期待される人間像（昭和四十一年十月 中教審答申）

第一章 個人として

- 一 自由であること
- 二 個性を伸ばすこと
- 三 自己をたいせつにすること
- 四 強い意志をもつこと
- 五 畏敬の念をもつこと

第二章 家庭人として

- 一 家庭を愛の場とすること
- 二 家庭をいこいの場とすること
- 三 家庭を教育の場とすること
- 四 開かれた家庭とすること

第三章 社会人として

- 一 仕事に打ち込むこと
- 二 社会福祉に寄与すること
- 三 創造的であること
- 四 社会規範を重んずること

第四章 国民として

- 一 正しい愛国心をもつこと
- 二 象徴に敬意の念をもつこと
- 三 すぐれた国民性を伸ばすこと



会津の藩校「日新館」

「仕の掟」

くならぬものはならぬく

- 一 年長者のいうことにそむいてはなりません
- 二 年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 三 虚言をいふ事はなりません
- 四 卑怯な振舞をしてはなりません
- 五 弱いものをいじめてはなりません
- 六 戸外で物を食べてはなりません
- 七 戸外で婦人と言葉を交えてはなりません

レーガン政権の教育庁長官

ベネット氏の「道徳教本」（一九九三年）

十の徳目

- 一 自己規律
- 二 同情
- 三 責任感
- 四 友情
- 五 仕事
- 六 勇氣
- 七 忍耐
- 八 正直
- 九 忠誠心
- 十 信仰心

十三歳からの道徳教科書二〇十二年二月二十日 育鵬社

- 一 しつかりとした自分
- 二 人とのかわり
- 三 かけがえのない生命
- 四 公と私
- 五 誰かのために

尊敬すべき人物、優れた人格として掲げられた人々

橋本左内	高村光太郎	山口良治	吉田松陰
熊沢蕃山	中江藤樹	山本幡男	木村秋則
イチロー	塙 保己一	草柳大蔵	光明皇后
アンドリュウ・カーネギー	牧野富太郎	西郷隆盛	
本田宗一郎	マザー・テレサ	オー・ヘンリー	
東山魁夷	村上和雄	菊池 寛	聖徳太子
池田 潔	小村虎三郎	藤沢周平	皇后陛下
佐久間艇長	二宮尊徳	橋木久義	ビートたけし
藤原正彦	福沢諭吉	上杉鷹山	盛田昭夫
ドーデ	渡辺 充		

李登輝元総統「台湾の主張」(平成十一年六月 P H P 研究所)

「いま日本に望むこと」

「私の考えでは政治家にかかわらず、現在の日本では、かつてなら精神的な修養といわれていたような鍛錬を行われなくなってしまった。」

「そこで私がいまあえて日本人に勧めたいのは、精神の修養たとえば道場で座禅を組んだり、朝早く起きて人のいやがるような掃除を行う訓練をしてみることである」

「大事なことは信念を持ち行動を起こすことである」